



防災だより

(発行元) 愛南町消防本部防災対策課 Tel.72-0131



水害に備えて～日頃から最新の気象情報をこまめに確認～

平成30年7月豪雨災害から5年が経過しました。この災害により町内では47戸の住家被害があり、県内では現在でも復興に取り組む地域があります。

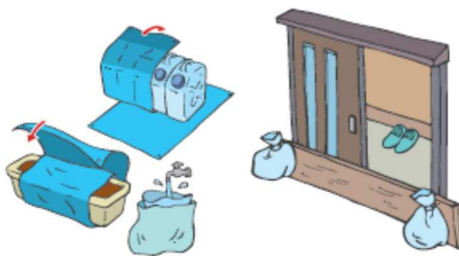
気象庁発行の「気象業務はいま 2023」には、極端な大雨は1980年頃と比較しておおむね2倍程度に頻度が増えており、近年の日本の降水及び大雨に関しては、①年間水量は変わらないが雨の降る日は減少している。②大雨の年間発生回数は増加しており、より強度の強い雨ほど頻度の増加率が大きいと記載されています。つまり、雨の降る日が減っている一方で、年間の雨の量は変わらないが、一度に降る雨の量が増えていることとなります。

大雨による被害は、全国で毎年発生しています。いつやって来るかわからない地震と違い、台風や集中豪雨は天気予報からある程度予測できます。普段から気象情報を入手し事前対策を取ることで、被害を最小限に抑えられます。



家のまわりの点検・準備

大雨が降る前に、家の周りの側溝が詰まっていないか確認し、水はけを良くしておきましょう。



また、大雨で敷地内や建物の中が浸水しそうな場合、水の勢いが小さい場合は、大きめのゴミ袋やポリタンク等に水を入れて水の侵入口となるところに並べたり、長めの板と土のうで臨時の止水壁を作ったりして、家庭にあるものを使って、水の侵入を減少させることができます。

安全な避難先とルートの確認

避難とは難を避けること、つまり安全を確保することです。安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。平常時にハザードマップ等で、普段いる場所が避難の必要な地域なのか確認し、避難先と避難ルートを確認しておきましょう。

